

SSKO

ハイランドレポート
(高原通信)

Highland report 17

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
ニュースレター 第21(2004.12.5)

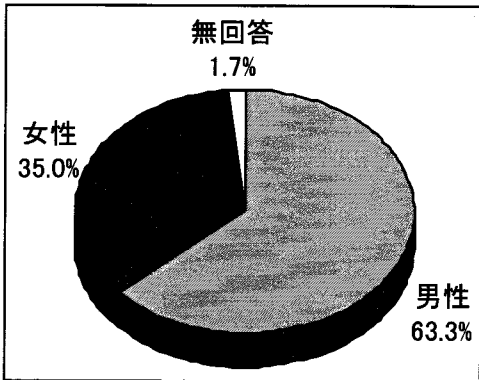
～ 薬物依存と保護観察 ～

筑波大学大学院人間総合科学研究科社会環境医学専攻 岡坂昌子

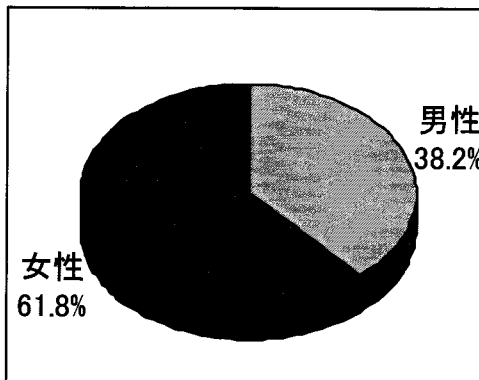
“保護観察”という言葉は、ダルクでとてもよく聞く言葉のひとつです。

犯罪者の社会内での更生保護を目的とする保護観察は、薬物依存者の社会復帰においても、重要な役割をになっているものでしょう。しかしお世話にはなっているものの、実際はどんな人達が、どんな意識を持ってその役割を務めているのか、また薬物依存者との連携についてどうであるのか、ほとんど知らない方が多いのではないのでしょうか。今日は、平成13、4年度の厚生科学研究「薬物依存・中毒者の予防、医療、およびアフターケアのモデル化に関する研究」で行なわれた研究の一部から、東京保護観察所の保護観察官60人と、同所での保護司特別研修受講者の保護司68人についてのご紹介をさせていただきたいと思います。

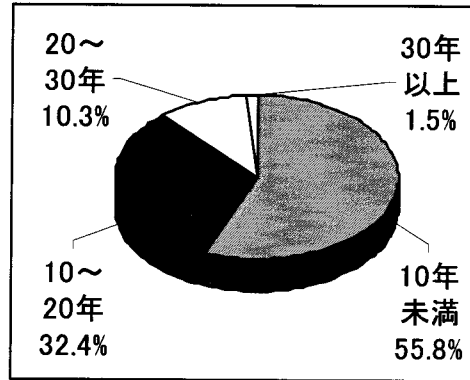
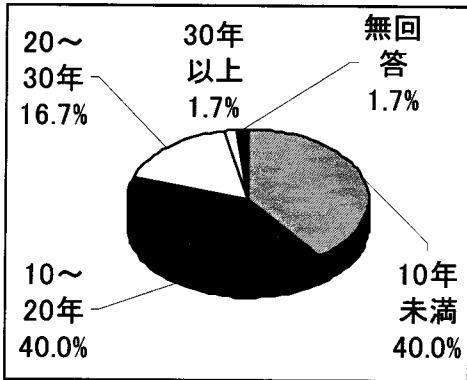
紹介させていただく保護観察官と保護司の性別や年齢、経験年数は、図1、2、3、4、5、6の通りです。



< 図1 保護観察官の性別 >



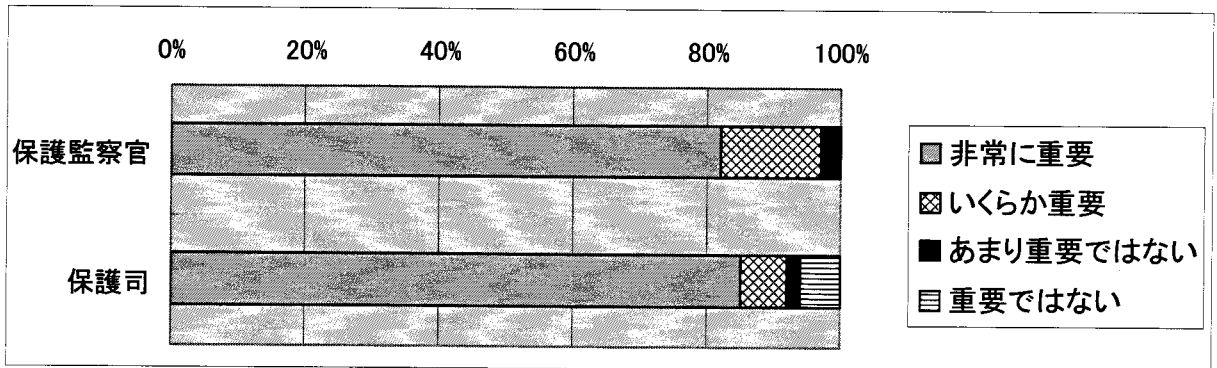
< 図2 保護司の性別 >



< 図5 保護観察官の経験年数 >

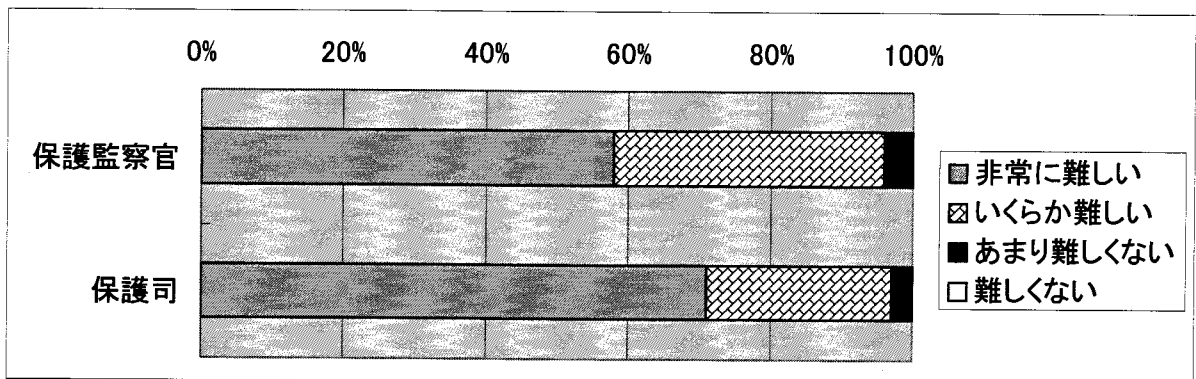
< 図6 保護司の年齢経験年数 >

保護観察の対象者は「家庭裁判所で保護観察に付された少年」「少年院からの仮退院を許された者」「刑務所からの仮出獄を許された者」「裁判所で刑の執行を猶予され保護観察に付された者」「婦人補導院からの仮退院を許された者」と幅広いのですが、「保護観察の中で薬物乱用者処遇は重要な問題か」という質問に対して、8割以上の保護司、保護観察官は「非常に重要な問題」と捉えているようです（図7）。



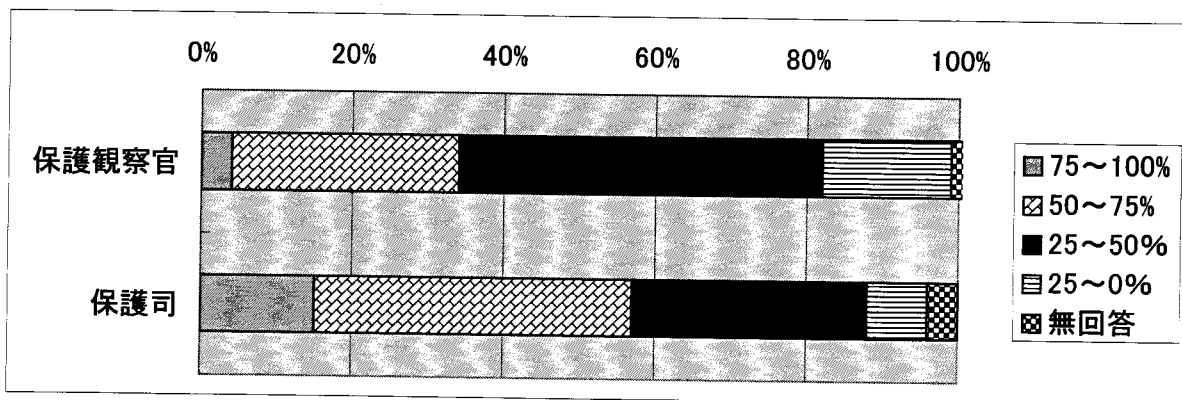
< 図7 保護観察の中で薬物乱用者処遇は重要な問題か？ >

「薬物濫觴者は他の対象者に比べ、処遇が難しいか」という質問に対しては、「難しい」と思っている保護観察官、保護司はともに9割を超え、「難しくないと答えている方は全くいません。



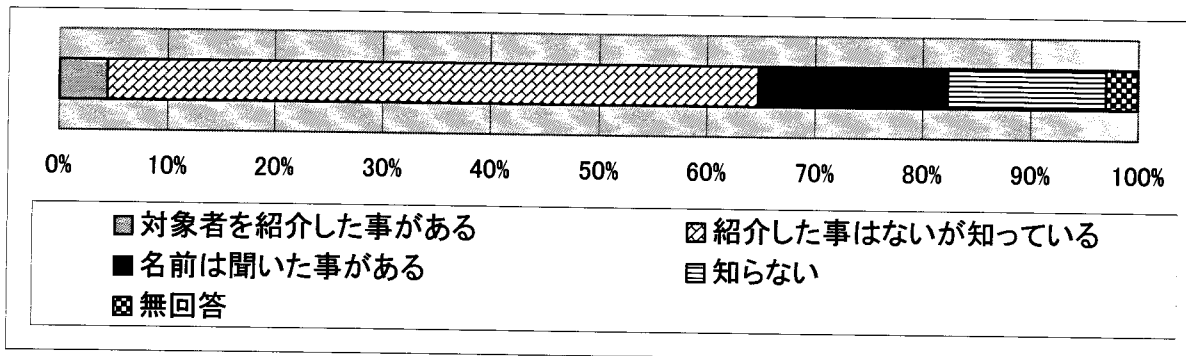
< 図8 薬物乱用者は他の対象者に比べ処遇が難しいか？ >

図9は「推定される、保護期間中の薬物再使用率」についての質問ですが、保護観察官、保護司ともに、多くは保護期間中に薬物の再使用が行われていると考えているようです。保護観察期間中に、対象者と直接関わる立場である保護司の方が、薬物再使用率が高いと考えています。

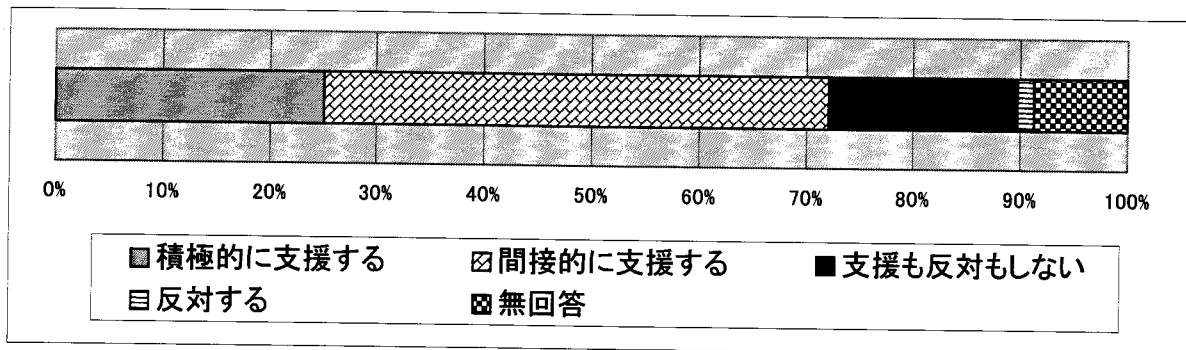


< 図9 推定される、保護期間中の薬物再使用率 >

図10は保護司に「ダルクとの関係」について質問した図です。60%の保護司がダルクのことを知っていますが、紹介した事がある保護司は4%しかいません。また、図11は保護司に「近所に薬物依存者社会復帰施設が建設される際の受容度」について尋ねていますが、「直接的に支援する」方は、全体の4分の1という割合でした。



< 図10 ダルクとの関係 >



< 図11 近所に薬物依存者社会復帰施設が建設される際の受容度 >

捕われ

依存症のヤジ

依存症のヤジです。自分は15歳のときにシンナーを吸い始め、16歳で覚せい剤を使用しました。それから約7年間薬を使い続けました。今まで自分にとって薬物は、あってあたりまえの物でした。自分自身薬物を辞めようと思えば環境や土地を変えたりした事もあったが結局薬物を辞めることは出来ませんでした。



シンナーから始まり覚せい剤を使うようになり、自分で注射出来るようになるとその感覚が忘れられなくなり友達と遊びでやっていたのが気付いたら一人で使うようになっていました。

18歳の時に逮捕され留置所で彼女に子供が出来たと言われて、これを機会に結婚して真面目になろうと思い結婚しました。でも自分は何も変わりませんでした。仕事もだんだんに行かなくなり、地元の間人悪さをするようになり、また覚せい剤に手を出してしまいました。家にもあまり帰らなくなり、子供や女房のことなどなんとも思わなくなっていました。なぜか自分の子供がかわいいとかいう感情などありませんでした。

ひどい時など子供の目の前で注射器を出して打っていたときも有り、子供が見ているのが女房が泣こうがわめこうがなんとも思わず使い続けて、結局は離婚をしてしまいました。

離婚しても薬はとまらず、まともな仕事も出来なくなり母親には縁を切られ、それから薬の回数も増えて仕事も金を稼ぐために詐欺まがいのことをしていました。

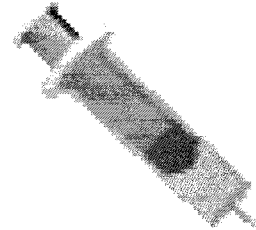
その仕事をしている間に、なぜか薬が少しの間止まり仕事が忙しかったせいもあって、遊ぶひまもなく金もたまり、別れた女房や子供に生活費を送るようになりました。



ある程度、仕事も出来るようになり店を任されるようになった時、一緒に働いていた人間に覚せい剤を誘われて一回だけならと思って久しぶりにやってしまいました。それから一週間に一回やるようになり、それがだんだん三日に一回、二日に一回になっていて気が付いたら毎日やるようになっていて回数もどんどん増えていきました。

それだけ使っているにも関わらず「自分は遊びでやっているから大丈夫だ」と思っ
ていて、まさか自分がヤク中だとは思っていませんでした。

それからは何もかも上手くいかなくなり仕事も出来ず金
も底を尽き女房や子供への生活費も送れなくなり薬を買う
お金を手に入れることに必死でした。ひどい時には会社の
お金を使い込み気付いた時には、色々な人間を裏切るよう
な形になり信用を失い居場所も失ってしまいました。



そんな状態でも薬を止めることは出来ず、そして逮捕され
ました。捕まって薬が抜け外に出たら薬を止めようと思いました。その時の弁護士に
施設を紹介されました。

そのときは施設に入ってまでと思っていました。執行猶予で外に出て行く場所がな
く義理の父親の所に帰る事になりました。ただ帰ったのはいいけど薬を使わずにいて
も追跡妄想が入り誰かに追われている感じがして落ち着いていられず、止めようと思
っていた薬に又手を出してしまい幻聴や追跡妄想がさらにひどい状態になり、施設に
つながることになりました。

施設に繋がった最初のころは過去自分がしたことや傷つけた人のことで捕らわれて
いたし追跡妄想もなかなか消えませんでした。だけど施設で生活を続けていくうちに
時間が解決してくれていた問題もあって少しずつ捕らわれ事や追跡妄想も少なくなり
ました。

入寮して三ヶ月がたちましたが薬の欲求が入ったり過去のことで捕らわれたりもし
ますが、今は守られた環境と仲間がいることで少しずつ楽になったような気がします。
自分は施設に繋がって初めて自分が依存症という病気なのだと知りました。今まで自
分のことをヤク中だと思ったこともなかったけど仲間の話を聞いたりして自分は病気
という事を認めました。



今は少しずつ自分の感情が戻ってきたので自分自身のことを考え
ることが出来るようになりました。今まで現実逃避ばかりし
てきて、その時さえよければそれでいいという考えで突発的
に行動してしまう事がよくありました。

なので今は物事からなるべく逃げないように自分自身と向
き合うようにしてるつもりかな!!



全員集合

献金,献品を下された方々

小西憲様、アナク様、藤井福子様、那菅谷文利様、坂本幸代様
飯島博様、内海光広様、渡邊厚司様、青木けい子様、
久保君子様、柴田幸作様、佐藤光代様、福田澄夫様、
長田康司様、山口絵美様、聖血礼拝修道会様
那須ケアセンターを支援する家族会様

匿名3名様

いつも献金、献品など戴きありがとうございます。尚、ニューズレター発送簡略化の為、郵便振替用紙は全員に同封させて戴いております。どうぞご理解ください。

編集

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙 3227 番地 2

TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

Eメール n-cc@mte.biglobe.ne.jp

ホームページアドレス <http://www5f.biglobe.ne.jp/~NACC/>

発行所

郵便番号一五七―〇〇七三
東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価100円